



令和3年度学校だより

五福校 ごふくこう

1月24日

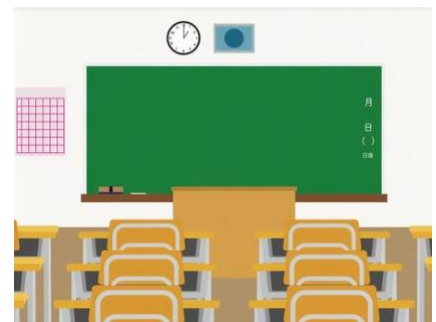
No119

文責 本田

今後の新型コロナウイルス感染症に対する学校の対応について 市の方針が出ましたのでお知らせします。

前回の学校便りで、新型コロナウイルス（オミクロン株）に対する学校の対応をお知らせしたところですが、熊本市教育委員会から通知が来ましたので改めてお知らせします。

本校で児童の感染が確認された時は、原則としてその学級は3日間は学級閉鎖をすることになります。その間、熊本市教育委員会や保健所と連携をとりながら、その学級のどこまでが検査対象になるかが決まります。（座席や接触の状況等によって検査対象かどうかは変わってきます）3日間の閉鎖で検査対象者の陰性が確認され、学級全体にも感染が認められない場合は、その後、学級閉鎖を解除できる見通しです。そこで新たに陽性者が確認された場合は再度検査対象を広げたり閉鎖の期間が長くなったりするようなこともあります。現在も刻々と対応状況が変化しており、また対応の変更の可能性もありますので、その際はわかり次第お伝えするようにしてまいります。何卒ご理解ご協力よろしくお願いいたします。



OECD 教育・スキル局 アンドレアス シュライヒャー局長のお話から・・・

先日、Kumamoto Education Week で本校の6年生の取り組みがオープニングセッションで紹介されたところです。本校の取り組みの紹介前に今回のイベントにメッセージを寄せられたOECDの教育・スキル局のアンドレアスシュライヒャー局長とは2年前に日本に来られたときに、直接話す機会を得ました。世界の教育をリードされるすごい方です。当時とても温かいお言葉をかけていただき、大きな力となりました。今回のメッセージの一部を紹介します。



パンデミックからの最大の教訓は、学習は簡単にデジタル化したものにとって代わったわけではないということだ。学習というものは常に社会の経験を反映するもの。子どもたちが実現したい未来のため、自己理解と自己分析をとおして心から学びたいという情熱を持つことが大切である。最近では、教育はもはや子どもたちに何かを教えるだけのものではない。ますます複雑で不確実なものが増える中で、子どもたちが信頼できるコンパス（羅針盤）を持ち、自信を持って行動するための考え方を身につけられるよう支えることが大切である。これからの教育に求められるのは、子どもの好奇心の心を開くこと。思いやりの心を開くこととも言える。それは、勇気を持って行動するために、よく考え、社会とつながり、思いを大切にすること。それが、私たちの時代の最大の脅威に対する最高の武器になる。私は、一緒に教育を通じてよりよい世界を築いていくことができると確信している。